

よろしくお願ひします！

学年集会での先生方の話

高寺先生

(音楽、一・二組副担)

昨年度一年間、出産子育てのため、お休みをしていました。今年度からまた、三中に復帰することができて、とてもうれしく思っています。

実技教科の授業は、六月の第三週から始まります。吉澤先生からも、この学年はみんなしっかりと歌を歌う学年だと聞いています。皆さんの歌声を、一日も早く聞きたいと思っています。

板垣先生

(数学、三・四組副担)

昨年度までは、高等学校で授業をしていました。前々回と前回、皆さんが提出してくれた数学の課題を点検してみても、一人一人が、とても一生懸命に取り組んでいることが伝わってきました。その姿



勢を大切に、数学に限らず、毎日毎回の小さいことの積み重ねを大切にしてほしいと思います。

小林先生

(理科、一組担任)

一年生の時に別のクラスだった人同士が一緒に集まって新しい二年生の新クラスを作っていきます。いろいろな問題も起こるかも知れませんが、皆で協力して解決できるように考

えてほしい。『前のクラスでは』『どうできたか』は昨年度のこと。大切なのは、『今度のクラスでは』『どのよう』にできるかなのです。

徳長先生

(社会、二組担任)

最近のニュースを見ると、いろいろなイベント、特にスポーツの大会等の中止を告げるものがばかりで、本当に心が痛みます。でも、落ち込んでばかりいても何も変わりません。現在自分は何ができるのか、まずはそれを考えていきたいと思っています。特に、私たちが日頃『あたりまえ』と考えていること、それがいざできない状況に追い込まれて、そこでやっと、それが本当に大切なことであつたのだと実感できます。

大山先生

(英語、三組担任)

臨時休業期間中、膝の手術をし、今では、ジョギングできるほど回復しました。

中二のこの時期の皆さんに望むことは『リア充』してほしいという事です。自分で決めた目標に向かって、一所懸命に努力し、一歩でも二歩でも先へ進むことが、『リア充』するために大事なことです。私たちが大人は、そのために協力を惜しみません。

渡邊先生

(国語、四組担任)

三月の初め、学年末考査が終わってまもなく、臨時休業が始まりました。「ちょっと休んでいれば、皆で三年生を送り出すことが、新年生を迎えることができる。」漠然とそんな風に考えていた人もいたことでしょう。私

ソーシャルディスタンス

登下校時の昇降口、手洗い場の前など、密集状態が見られます。特に手洗い場では、『足跡マーク』がなくなつよう気を保つよう。一人一人の意識が大切です。

私たちの日常というもの、こんなにも簡単に失われることがあるのだと改めた考えさせられました。さて、そんな今、大事なことは、自分たちが身につけたことを、より確実に、強固なことにしていくことです。たとえば、この場に集まってくれた二年生全員がこの一年間の成果は、本当にしっかりと人の話を聞くことができるようになったこと。先生方の誰もが認め、お褒めにあづかる事柄です。それを、さらに一つ一つ増やし、積み上げていくこと。中堅学年としての皆さんに求められることだと思います。